

漢文 李白『早発白帝城』 定期テスト対策問題 | 形式・押韻・現代語訳・句法の頻出
設問と解答

組 番 氏名

/100点

本文

早発^①白帝城^② 李白
朝辭^③白帝^④彩雲間^⑤
千里^⑥江陵^⑦一日^⑧還^⑨
兩岸^⑩猿聲^⑪啼^⑫不住^⑬
輕舟^⑭已^⑮過^⑯萬重山^⑰

(書き下し文)

朝(あした)に辞す 白帝 彩雲の間
千里の江陵 一日にして還る
兩岸の猿声 啼きて住(や)まざるに
輕舟 已(すで)に過ぐ 万重の山

※本文中の傍線①～⑰は、下の設問で問われている箇所を示しています。

設問

1. この詩の形式を、漢字四字で答えなさい。

2. この詩の作者である李白は、後世から何と呼ばれているか。次から選びなさい。

- ア 詩聖
- イ 詩仙
- ウ 詩仏
- エ 詩鬼

3. この詩で押韻している漢字を、本文中からすべて抜き出さなさい。

4. 設問3で抜き出した字に共通する韻（母音のひびき）を、ローマ字で答えなさい。

5. 第一句「朝辭白帝彩雲間」を現代語訳しなさい。

6. 傍線①「彩雲」とはどのような雲か。簡潔に説明しなさい。

7. 第二句「千里江陵一日還」を現代語訳しなさい。

8. 傍線③「還る」とは、ここではどうすることか。説明しなさい。

9. 傍線部②の「江陵」は、白帝城から見てどのような場所にあるか。次から選びなさい。

- ア はるか遠く（千里）の、長江の下流にある町
- イ 白帝城のすぐ隣にある小さな村
- ウ 長江の上流にある、李白の故郷
- エ 都の長安のすぐ近くにある町

10. 第三句「兩岸猿聲啼不住」を現代語訳しなさい。

11. 傍線④「猿聲」は、どこを通るときに聞こえる声か。地名を入れて説明しなさい。

12. 傍線⑤「不住」の読みと意味を答えなさい。

13. 第四句「輕舟已過萬重山」を現代語訳しなさい。

14. 傍線⑥「已」の読みと意味（用法）を答えなさい。

15. 傍線⑦「萬重山」とはどのような山々のことか。説明しなさい。

16. 第二句にある「千里」と「一日」は、何と何を対比させた表現か。また、その対比によって何を強調しているか説明しなさい。

17. 第三句と第四句は、どのような関係でつながっているか。次から最も適切なものを選びなさい。

- ア 猿の声を聞いてゆっくり休んでいるうちに、舟が止まってしまった
- イ 兩岸の猿の声はまだ鳴きやまないうちに、舟はもう幾重もの山々を通り過ぎていた
- ウ 猿の声があまりにうるさいので、舟をいそいで進めた
- エ 山々が高くそびえているので、舟がなかなか進まなかった

18. この詩全体に共通して流れている感情として最も適切なものを、次から選びなさい。

- ア 故郷を離れる深いさびしさ
- イ 自由を取り戻して帰る、晴れやかな喜び
- ウ 戦乱の世をなげく悲しみ
- エ 老いて旅を続けるつらさ

19. この詩には、舟が進む「速さ」を感じさせる表現が多くある。速さを感じさせる語句を、本文中から二つ以上抜き出さない。
20. 李白がこの詩をよんだとき、彼はどのような状況に置かれていたか。「流罪」「恩赦」という二つの語を必ず使って、四十字以内で説明しなさい。
21. この詩の主題（テーマ）を、十五字以内で簡潔に書きなさい。
22. 七言絶句では、ふつう第何句と第何句の末で押韻するか。原則を答えなさい（起首の句で韻をふむ場合も含めて説明しなさい）。